

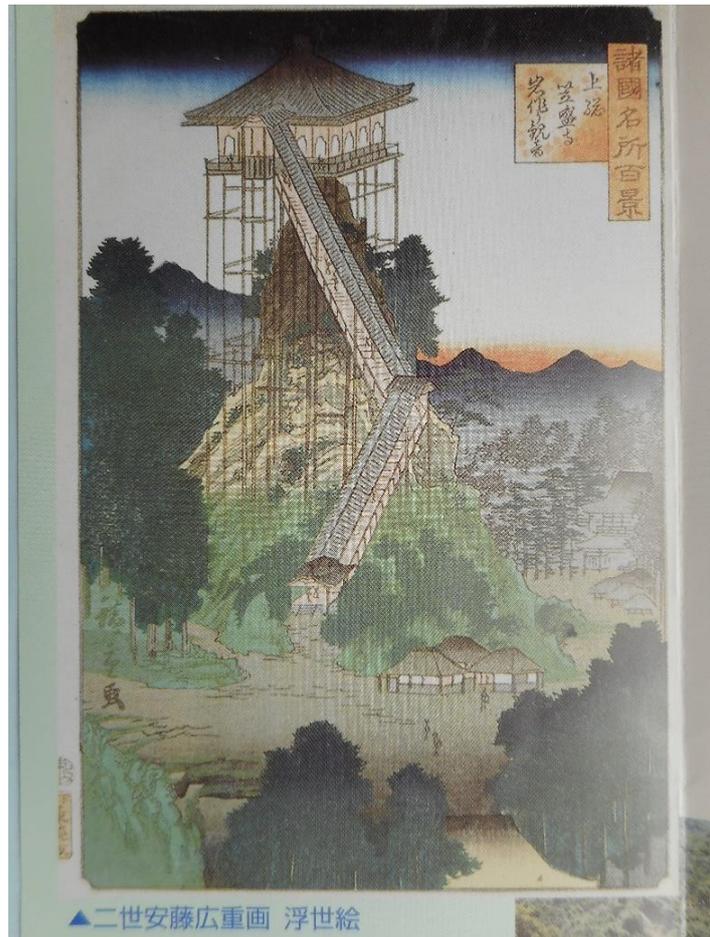
## 紅葉の笠森観音参詣記

惠谷 浩

新聞の日曜版に聖なる山・異形の寺社と題して笠森観音のことが載っていたのを見て、以前一度行ったことがあるのを思い出し、2018年11月26日（月）に日本で唯一の特異な建築様式である四方懸造（しほうかけづくり）で岩の上に造られた笠森観音堂を参詣した。

笠森観音（正式名称：大悲山楠光院笠森寺、ただし笠森観音のパンフレットには天台宗・別格大本山笠森寺となっている）は延暦3年（784年）に伝教大師最澄が楠の霊木で十一面観世音菩薩を刻み、岩上に安置し開基されたと笠森寺に伝えられており、十一面観世音菩薩が本尊であることから、笠森観音と通称されている。観音堂は平安期、長元元年（1028年）に後一条天皇の勅願により建立され、その後焼失したが、現在の建物は解体修理の際発見された墨書銘から文禄年間（1592～1595年）に再建されたと考えられている。明治4年（1908年）に国宝に、その後昭和25年（1950年）に文化財保護法の制定で国指定重要文化財となっている。さらに、笠森寺周辺の森林は延暦年間の笠森寺草創当時から禁伐林として保護されており、昭和45年に国指定天然記念物笠森自然林となっている。また観音堂は坂東三十三観音札所の第三十一番札所として古来より巡礼の霊場となっており、江戸時代末期に活躍した浮世絵師・二代歌川広重（安藤広重：安藤は家姓）が諸国名所百景に上総笠盛寺岩作り観音として、天を突くような岩と四方懸造を強調して描いている。

なお、東海道五十三次で風景画家としての地位を確立した歌川広重の作風は現実の自然に近く詩的な情趣が親しみやすいのに対し、富嶽三十六景で名声を得た葛飾北斎の作風は対照的で造形的配慮を優先させた厳しい景観であり、当時の庶民の人気を二分したという。



▲二世安藤広重画 浮世絵

二代歌川（安藤）広重の上総笠盛寺岩作り観音

9:00 自宅発。笠森観音は房総半島のほぼ中央千葉県長南町笠森にあり、新京成電鉄、JR 総武線・内房線、小湊鉄道に乗り 10:54 上総牛久駅着。笠森までバスがあるが、2～3 時間に 1

便。駅前を眺めると、60 歳定年退職後まだ間もない頃に訪れ、バス時刻を待ち、毎朝の健康運動を行っていないので、どうも身体が変だと軽く運動したことを思い出した。今回は、次のバスは 11:52 発で笠森への所要時間が 11 分と短いので、紅葉を見ながら歩くことにした。地図を頼りに駅前の道路をしばらく進んだが、踏切に出会わない。交差点でどうもおかしいとガソリンスタンドの人に聞くと、駅前で反対方向に進んでいた。国道 409 号線を紅葉がちらほらする里山を楽しみながら歩き、11:55 諏訪神社に。参道下の石段から仰いで参詣し先を急ぐ。途中、笠森観音へ向かうのか、観光バス 3 台が連なり、また牛久駅からのバスにも追い越され、トンネルを抜け、左手にある笠森寺に着 13:00。



10:59 上総牛久駅



11:52 市原市の山里の秋



11:55 諏訪神社門前



11:56 諏訪神社参道



11:57 諏訪神社参道石段



12:49 長生郡長南町笠森の秋

笠森寺本坊表門に解説板が掲げられてあり、一間一戸の四脚門で檜材の主柱の右に二間、左に一間の袖塀をつけ、木鼻の上に元禄十年（1697 年）建造との墨書があるとのこと。さらに車道を少し進み、笠森観音参詣口・参道からは、数えなかったが 130 段位の石段が続き、上りと下りを仕切る手すり握りながら上った。13:12 巨大な名木三本杉が参道横にある。3 本の幹の下を見ると確かにつながっているのがわかる。二本杉は見たことがあるが、三本杉に出会うのは初めて。さらに、霊木子授楠がある。巨大な楠で根の張り具合などから相当に老木と思われ、幹に大きな穴が開いている。参道から階段が付けられており、この穴をくぐり抜けると子宝を授かるという。また、笠森観音の山門手前の崖の上に三基の句碑が並んで建立されており、中央は元禄時代の俳聖・松尾芭蕉の句碑で「五月雨にこの笠森をさしもぐさ」と刻まれている。芭蕉は天和 2 年（1682 年）に観音堂を参詣し、句を奉納している。その右は各務支考、左は渡辺雲裏の句碑で、芭蕉句碑を守るかのようである。これらの句碑は笠森村出身の俳

僧・故貝により安永 6 年に建立されたことが笠森寺境内にある故貝基礎などによってわかる。



13:01 大本山笠森寺本坊表門



13:02 笠森寺本坊



13:08 観音堂参詣口



13:12 三本杉



13:15 子授楠



13:17 参道を覆い神仏が宿っているような子授楠



13:21 三基の句碑 (中央が松尾芭蕉)

13:24 笠森観音二天門・山門に。二天門の向こうには土産物屋と観音堂。観音堂は歌川広重

の浮世絵がさほど誇張でないとも言え、感嘆。高さが 34mあり、桁行五間、梁間四間で巨大な岩の周りに 61 本の脚柱が岸壁の形状に合わせた長さで張り巡らされ、堂を形成しており、当時の土木・建築技術の粋を集めて造られたのだろう。堂が巨大岩の上に覆いかぶさっている。日本には聖なる山の岸壁に建立された懸造りの寺社は数多くある。しかし、四方が懸造りは笠森観音が唯一である。観光バス・車での参詣者が多くおり、まず記念写真を撮ってもらった後、すっかり遅くなってしまった昼食を今朝買ったコンビニの巻き寿司で紫金閣の前のベンチに座り済ませた。



13:24 笠森観音二天門



13:25 二天門を通して土産物屋と観音堂を望む



13:28 歌川広重の浮世絵を想わせる紅葉の観音堂



13:36 観音堂を背に記念写真（筆者、左は手水舎）



14:05 巨岩の上に建つ観音堂の上部



14:06 本尊への階段正面口（右）

14:07 いよいよ、観音堂の中央にある本堂に安置されている本尊・十一面観世音菩薩に参詣。土足厳禁の75段のかなり急な木造階段を上り・下りに別れ、堂を構成する木造枠組みを見ながら上り、受付で拝観料 200 円を納め本堂へ。本堂内は撮影禁止。本尊は午と丑の年に御開帳とのことで直接拝めないが参詣。その後、堂の回廊を右回りに一周し、34mの高さからの光景を巡った。遠望はかすんでいたが、紅葉と緑が実に美しい。階段を下り、自販機のコーヒーを飲んで一休みし、下山。



14:09 正面階段から本堂への階段に向けて



14:11 本堂拝観受付への階段



14:13 巨大岩壁に立てられた柱



14:14 巨大岩の頭を覆う枠組み



14:14 本堂・御本尊の真下



14:24 本堂の回廊と紅葉



14:27 回廊を直角に周る



14:28 回廊から境内を望む（右上に二天門と六角堂）



14:28 拝観受付へ一周



14:29 階段の手前に掛けてある小さな梵鐘



14:31 急な下り・上り階段

帰りはバスに乗ることにして、笠森バス停へ。16:30 発だが、乗る者は筆者のみ、しかも既乗車者は1名のみで、終点の上総牛久駅まで乗車・下車者なしの房総半島の過疎地ローカルバス。往き経路で帰り、18:40 自宅着。



15:21 参道をバス停へ下る



15:24 参道の壁面に安置された観音像